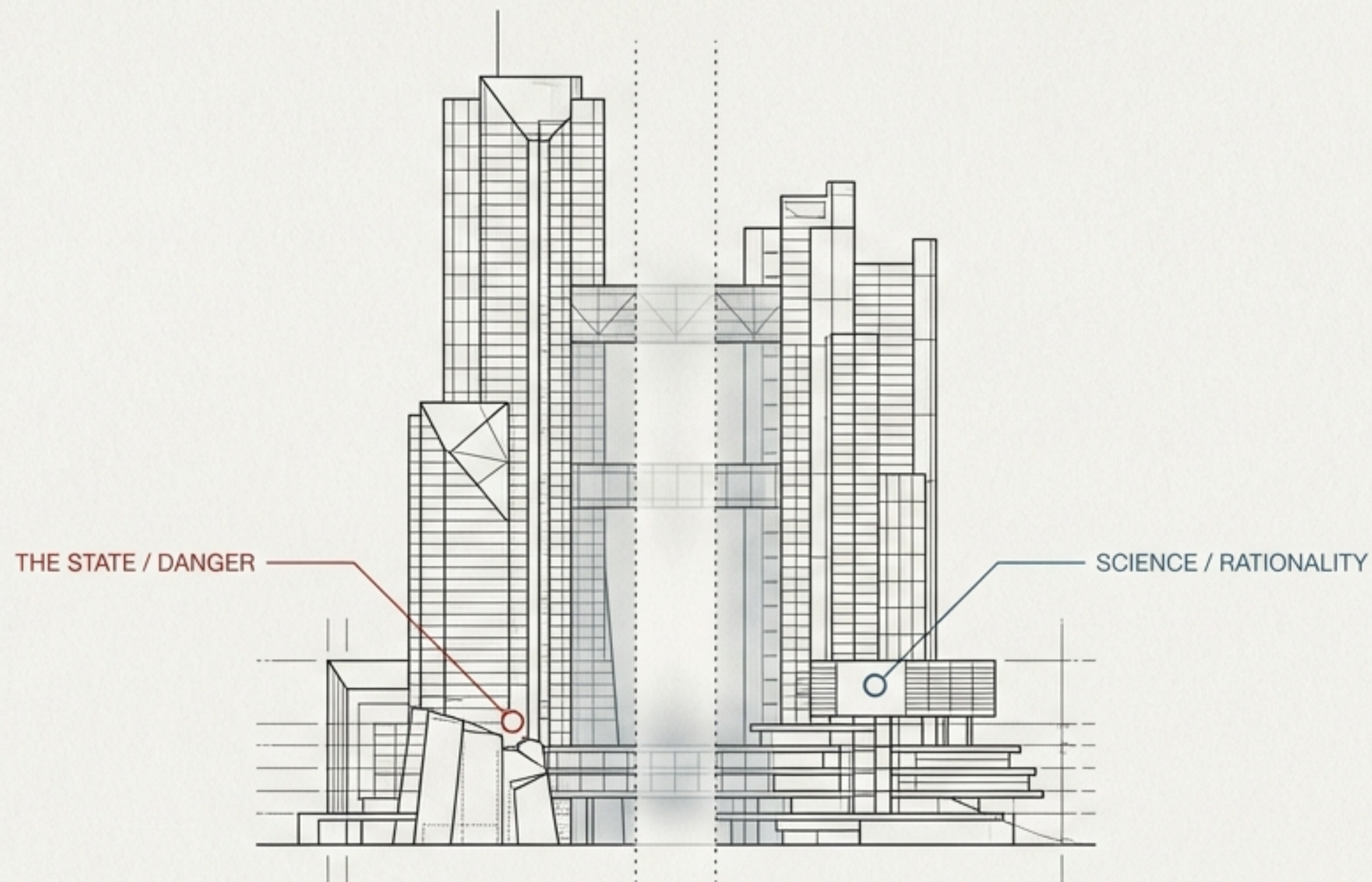




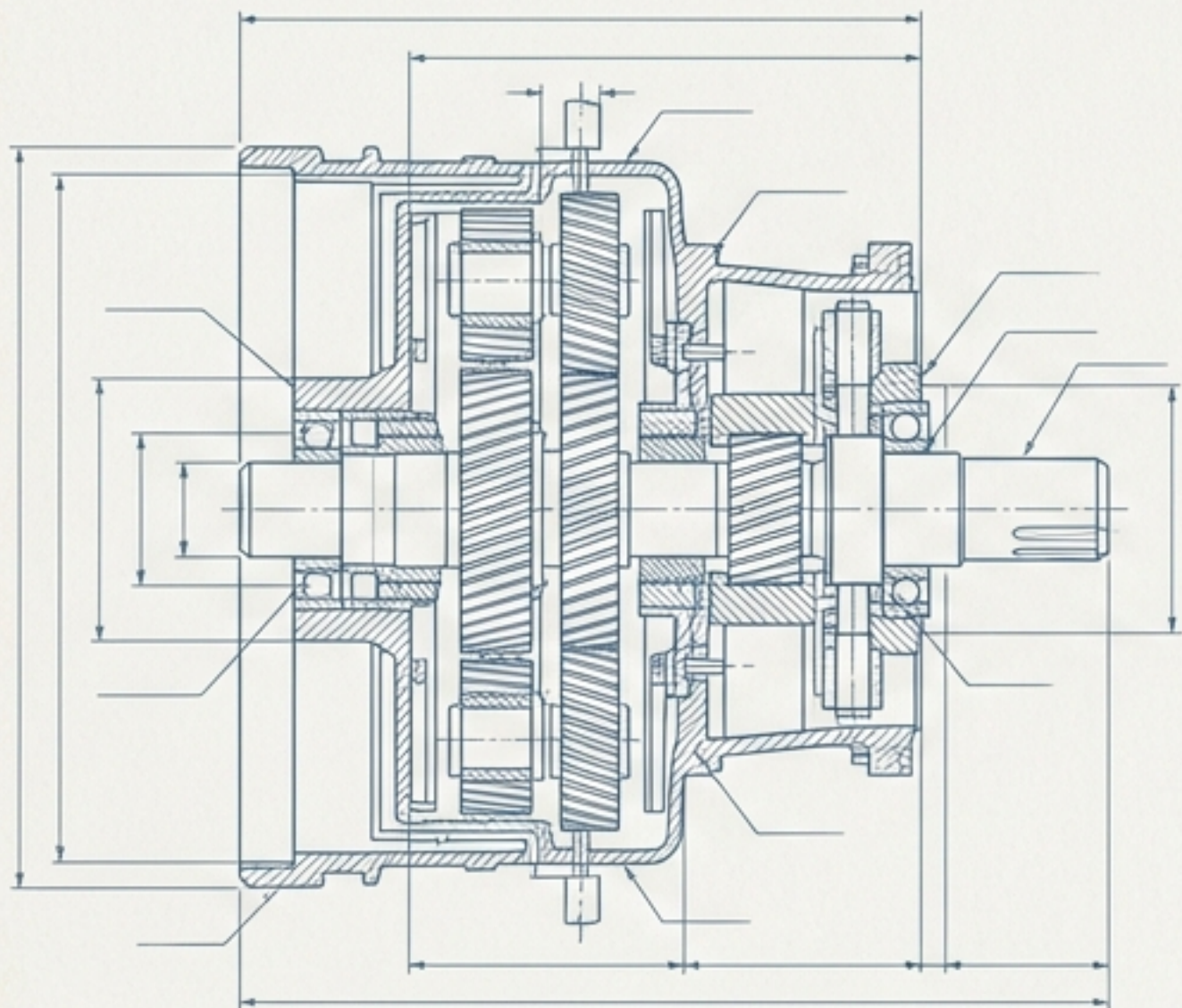
キリスト教を拒否した近代化日本のありかた

科学技術と倫理の狭間にある「空白」の正体

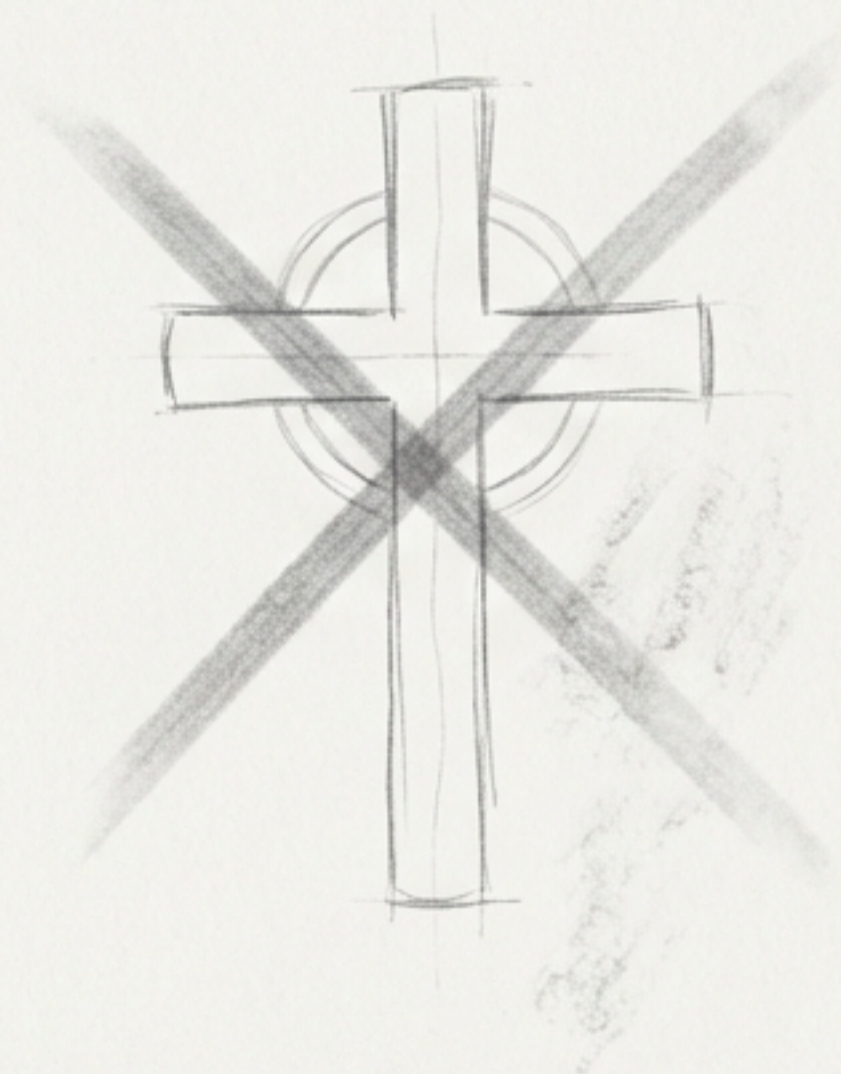
2026.01.23

近代化のいびつな成功

Helvetica Neue
ACCEPTED



Helvetica Neue
REJECTED

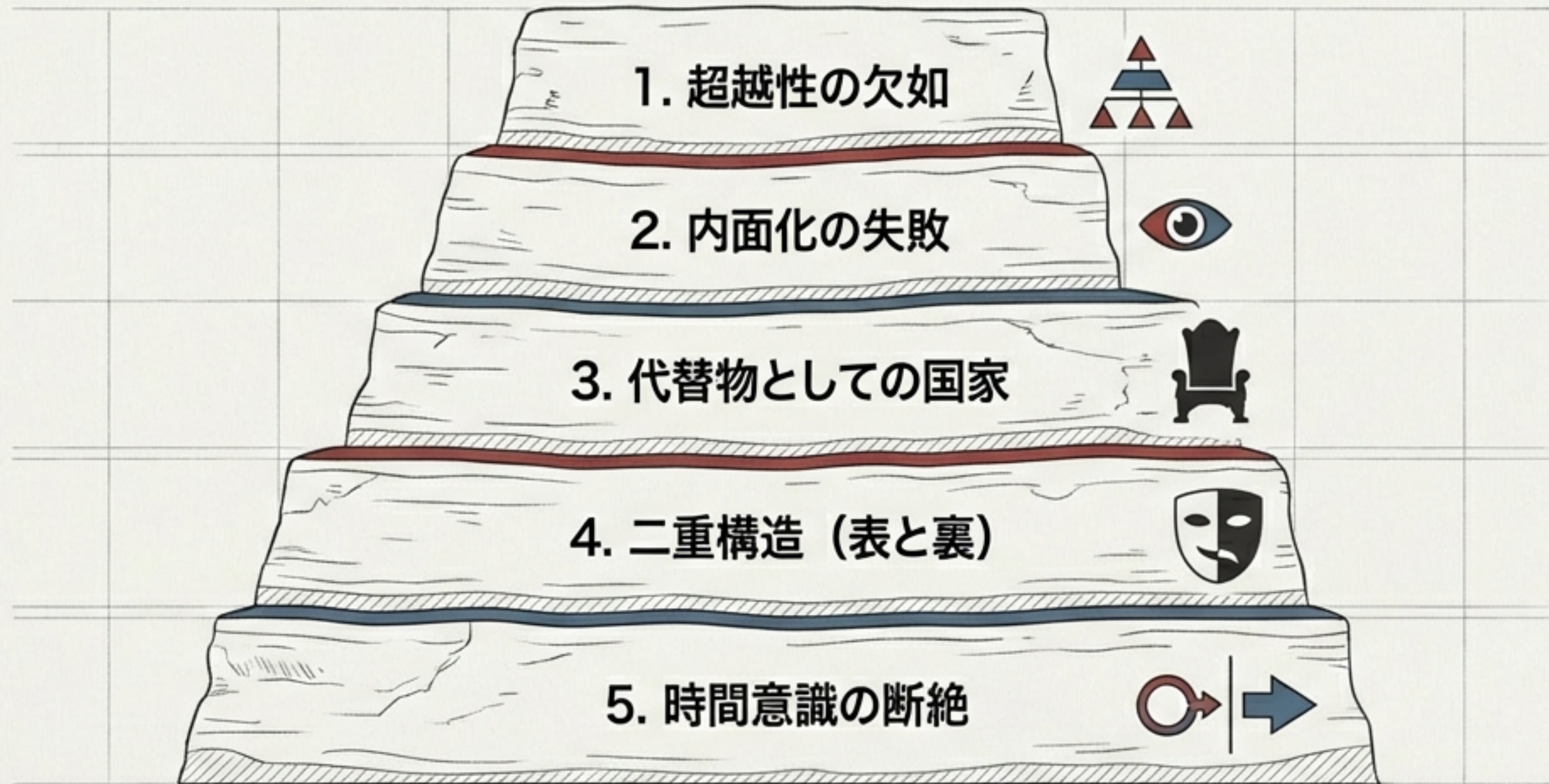


基本テーゼ：

- ・「科学技術は受け入れたが、宗教（キリスト教）は拒否した」
- ・この選択が、日本に『精神的・倫理的な未成熟』という遺産を残した。

なぜ「精神的未成熟」が残ったのか

これは単なる宗教論ではない。科学技術という強大なエンジンを制御するための「超越的倫理」が欠落しているという、日本のOS（基本構造）に対する多角的な診断である。



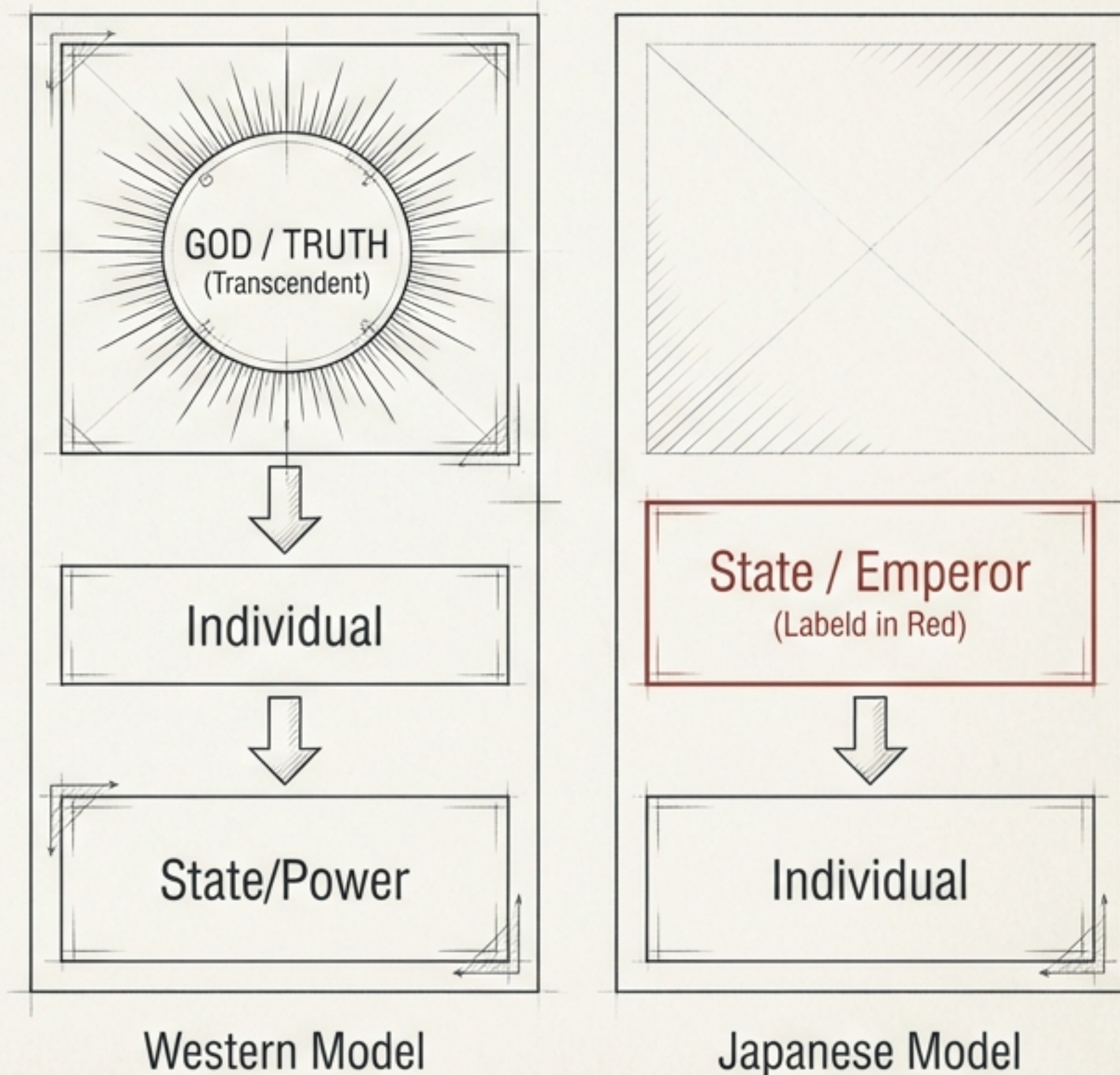
1. 超越的倫理の欠如

丸山眞男・内村鑑三の視点

西欧：国家の上に「神（絶対的倫理）」があるため、国家の誤りを批判できる。

日本：国家・天皇が「最終審級」になった。

帰結：国家が暴走した際、それを止めるための「外部の倫理的足場」が存在しない。



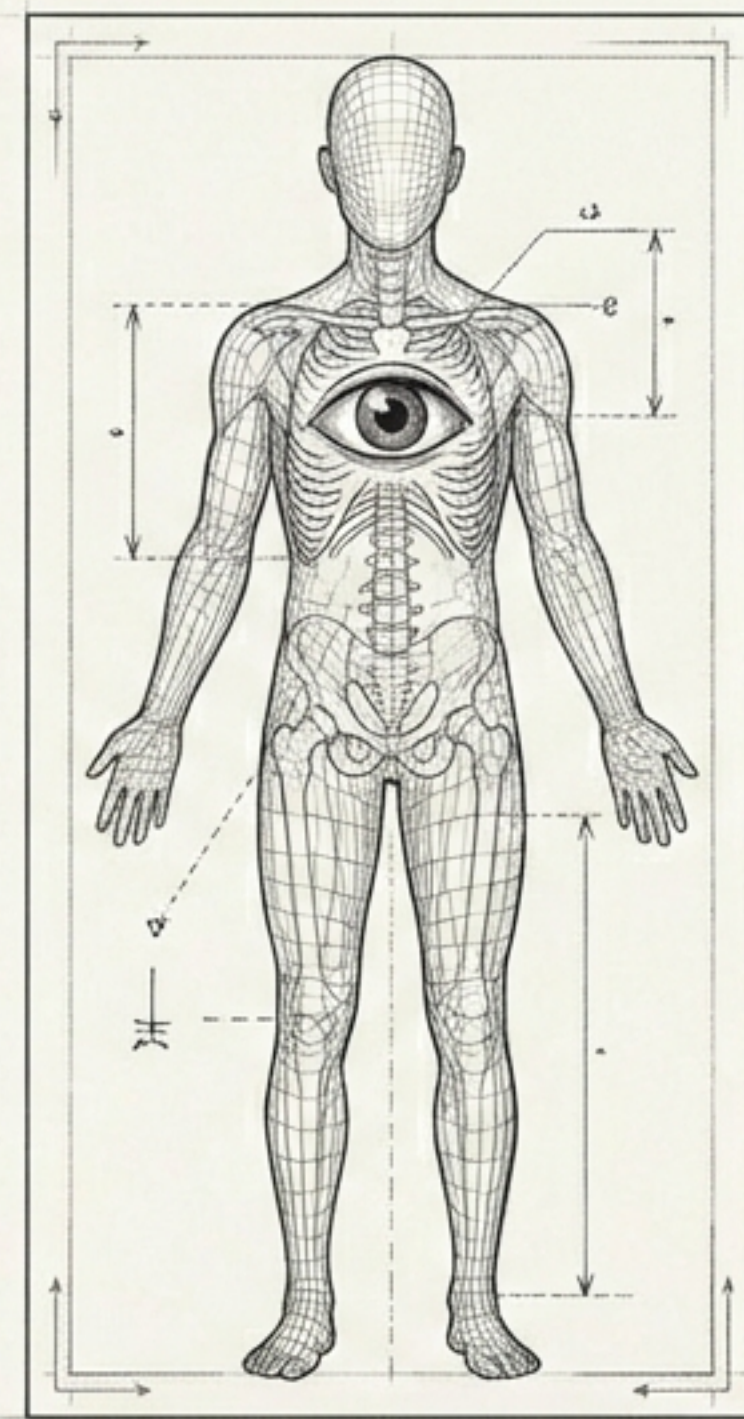
2. 内面化の失敗

南原繁・大塚久雄の視点

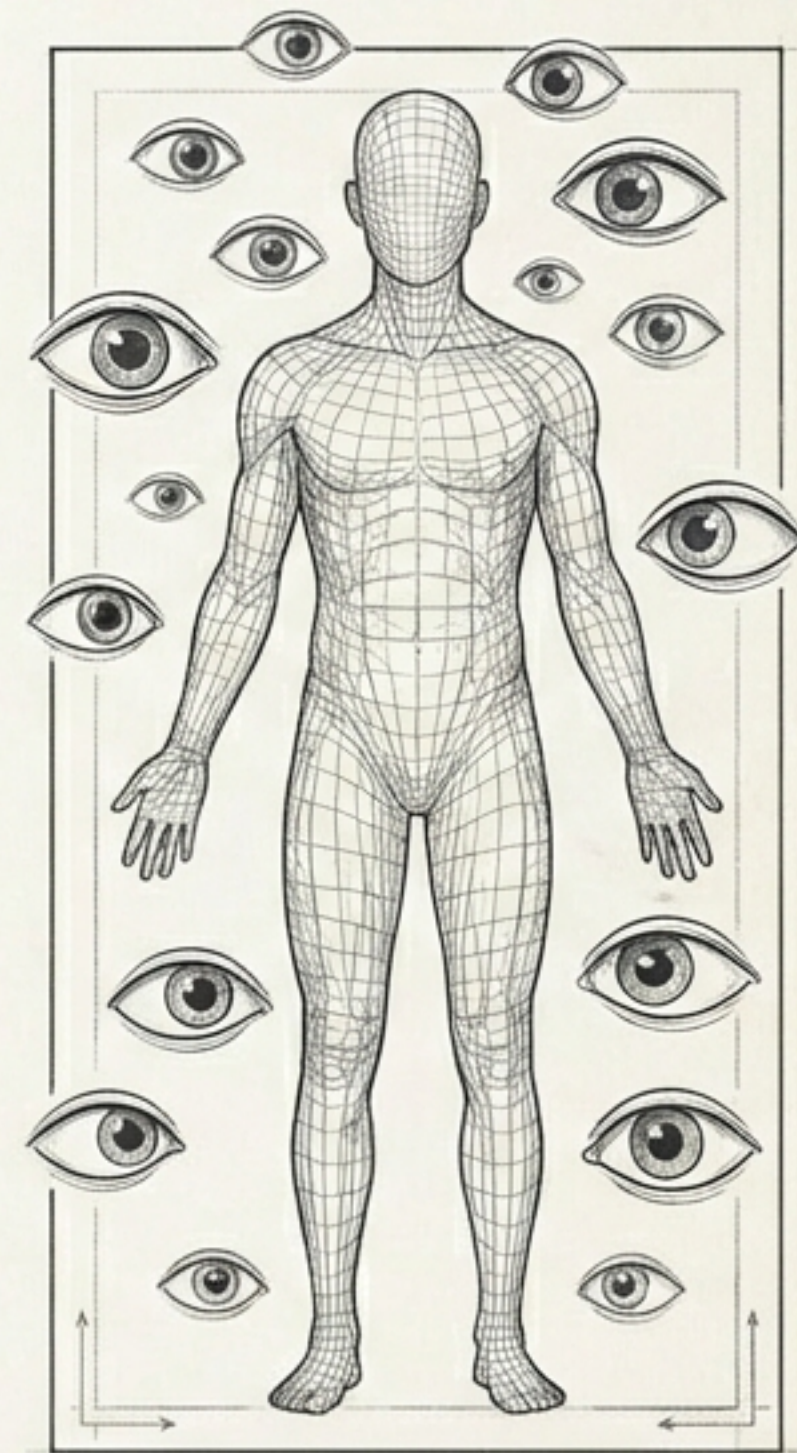
キリスト教的モデル：内なる良心（罪の意識）が行動を律する。

日本的モデル：規範は外にある（法・世間・人の目）。

帰結：「お天道様が見ていなければ何でもあり」。制度依存型の超自我。



罪と良心
(Internalized)



恥と世間
(Externalized)

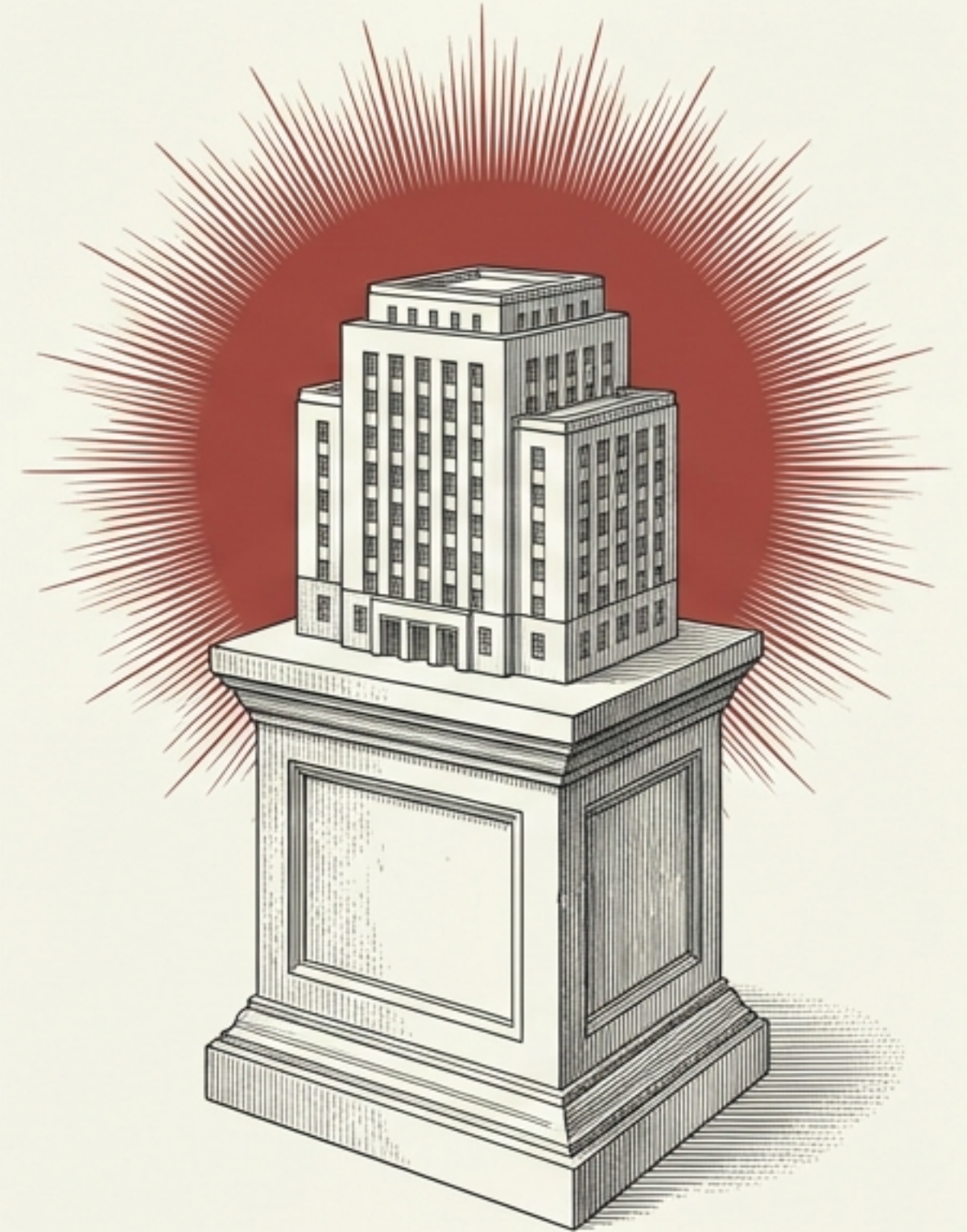
3. 宗教の代替物としての国家

加藤周一・ベネディクトの視点

空白は埋められた。キリスト教を拒否した代わりに、天皇制や国体がその座に座った。

定義：「宗教なき世俗国家」ではなく、「世俗を装った宗教国家」。

帰結：科学技術（合理性）が、神話的国家（非合理性）の召使いとなる。



State as Deity (The New Icon).

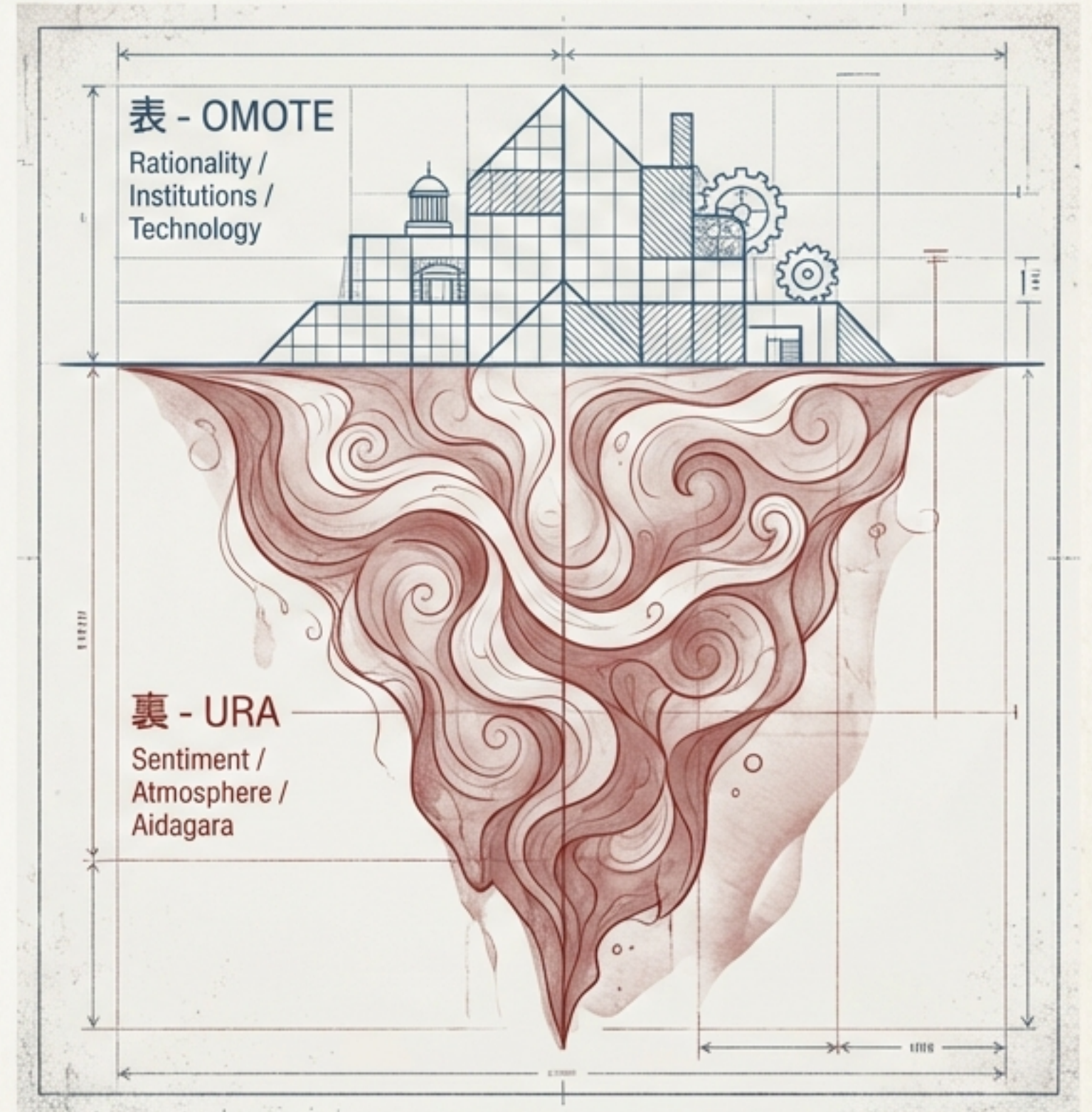
4. 「表」の合理性・「裏」の情念

和辻哲郎の二重構造

表：西洋由来の制度や論理が稼働している。

裏：実際の意思決定は「空気」や「間柄」という情念で動く。

帰結：論理的な議論が、最終的には情緒的な「空気」に敗北する。



5. 時間意識の断絶

ヤスパース・阿部謹也の視点

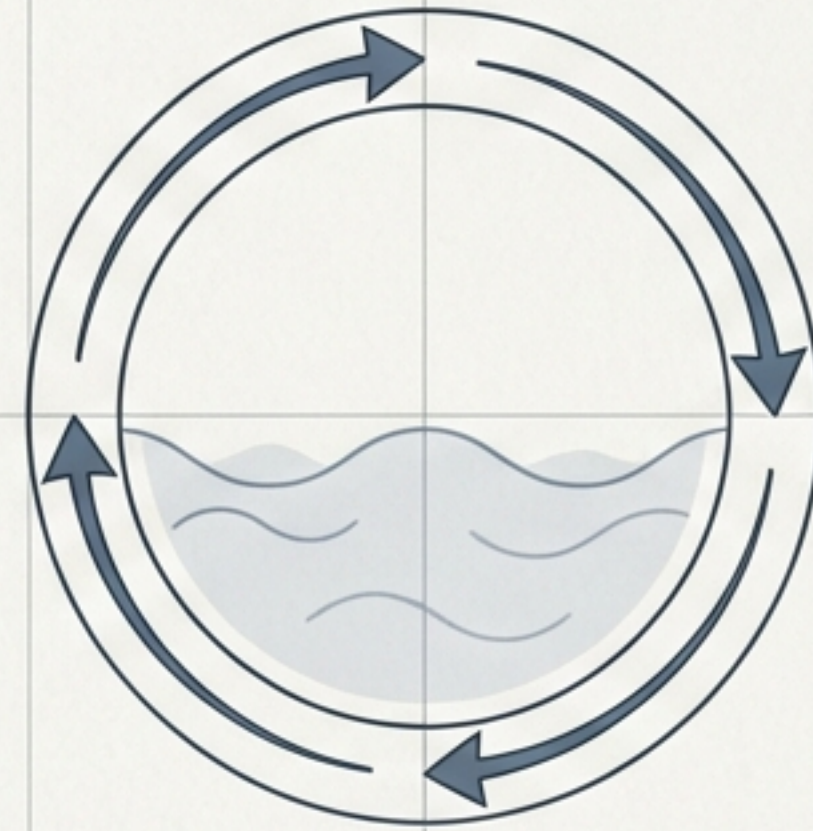
西洋（キリスト教）：時間は直線。過去の罪は消えず、歴史として背負う。

日本：時間は循環。「水に流す」ことで過去は清算され、常にリセットされる。

帰結：トラウマや過ちが「物語」として継承されず、無かったことになる。



直線的時間（責任の蓄積）



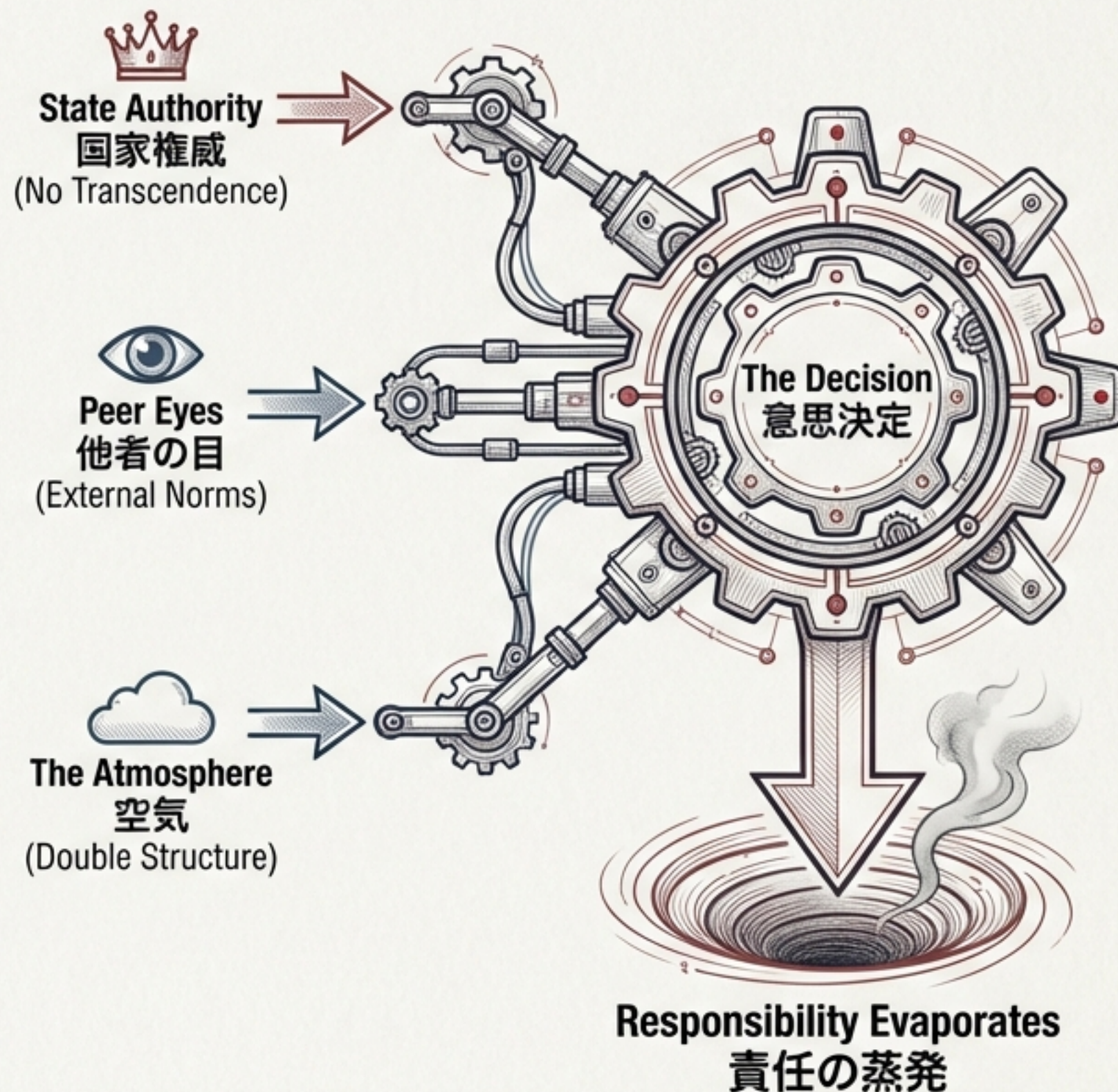
循環的時間（リセット・水に流す）

日本のオペレーティング・システム

これら5つの要素が結合し、一つのシステムを形成している。

- ・絶対的な「NO」がない
- ・判断基準は「他者の目」
- ・論理は「空気」に従属する
- ・歴史は「リセット」される

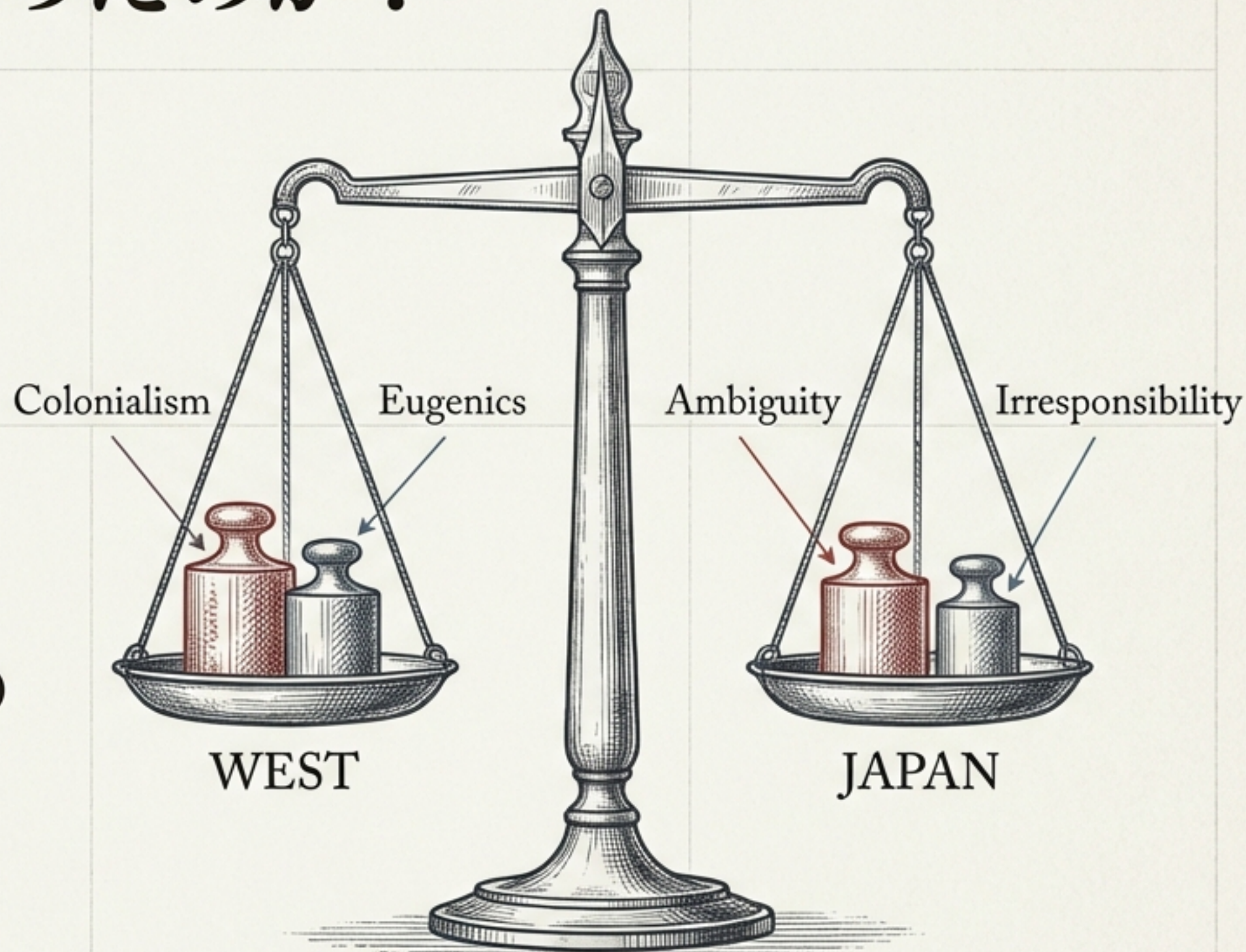
結果：責任の所在が不明確なまま、
社会が駆動する。



キリスト教が「正解」だったのか？

キリスト教導入が即解決策だったわけではない。西欧もまた、植民地主義や優生思想という過ちを犯した。

本質的な問題：宗教の有無ではなく、「科学技術という力を制御するための倫理言語」を持っていたか、という点にある。

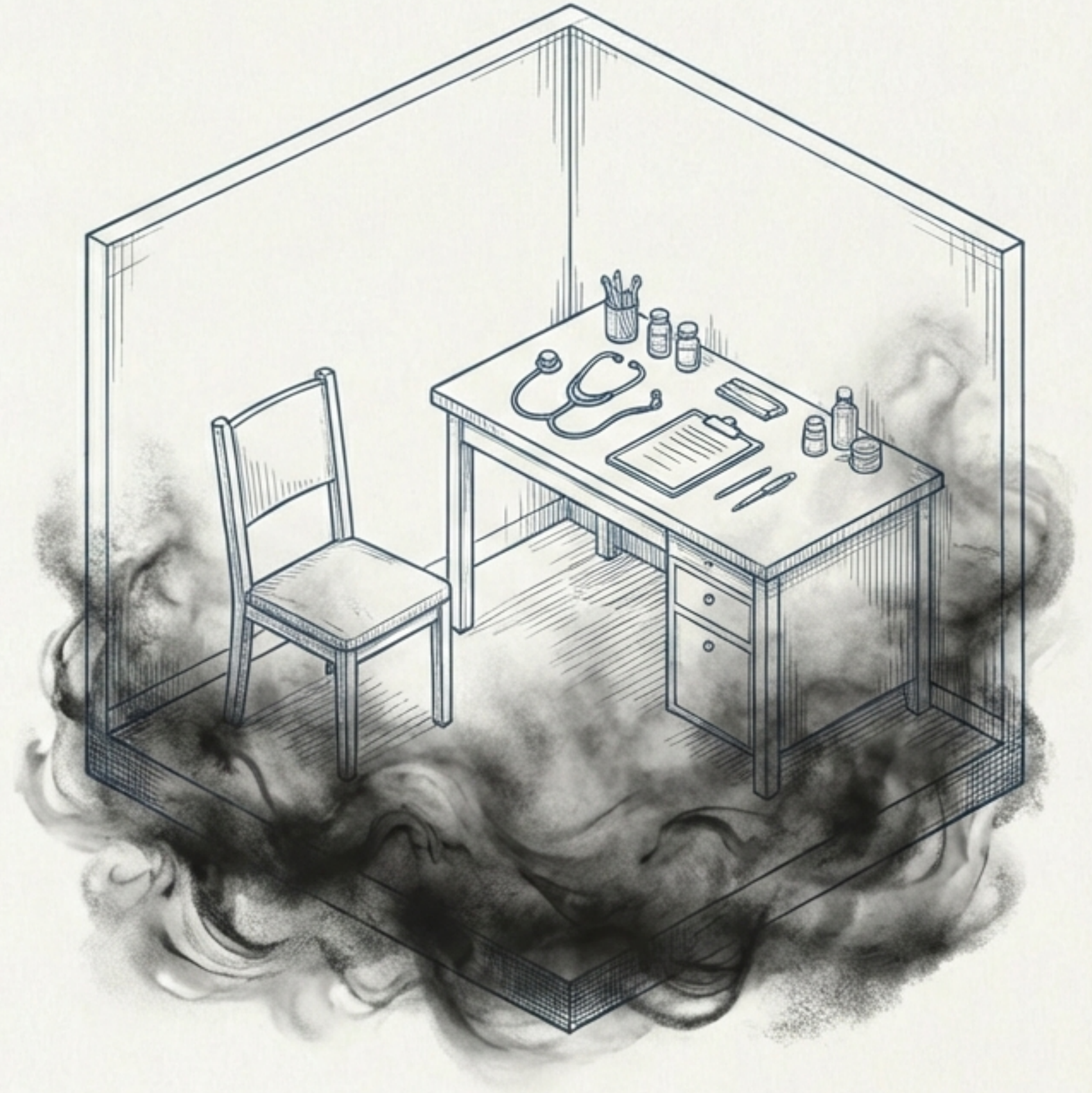


精神医療という「現場」

この構造的欠陥は、臨床現場に現れる。

- ・ 診断や薬物（科学技術）は導入された。
- ・ しかし、それを使う倫理は「場の空気」や「慣行」に委ねられた。

帰結：治療と管理（強制）の境界が曖昧になり、反省や責任はシステムではなく、個人の患者に押し付けられる。

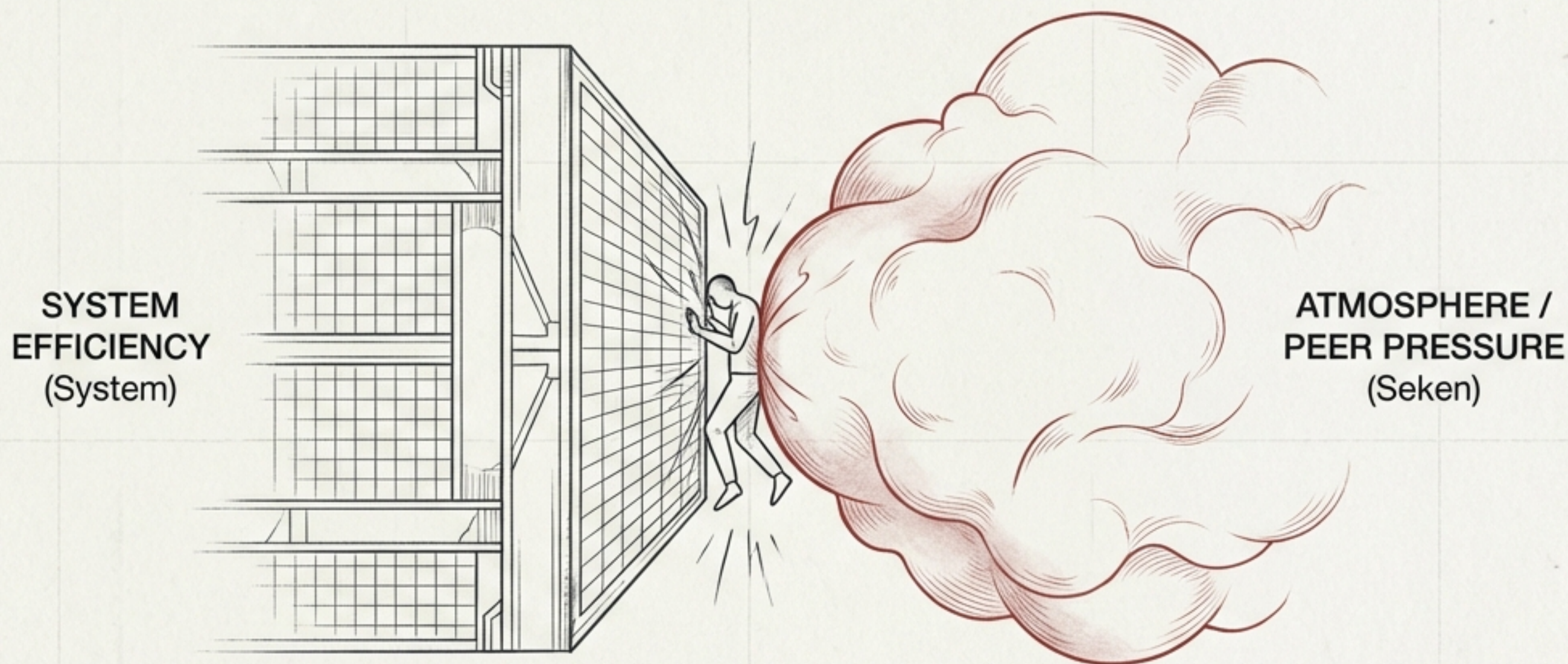


個人へのしわ寄せ

超越的倫理（神）というクッションがない社会。

個人は「システムの効率性」と「世間の同調圧力」の板挟みになる。

逃げ場のない個人に、過剰な「反省」が求められる。

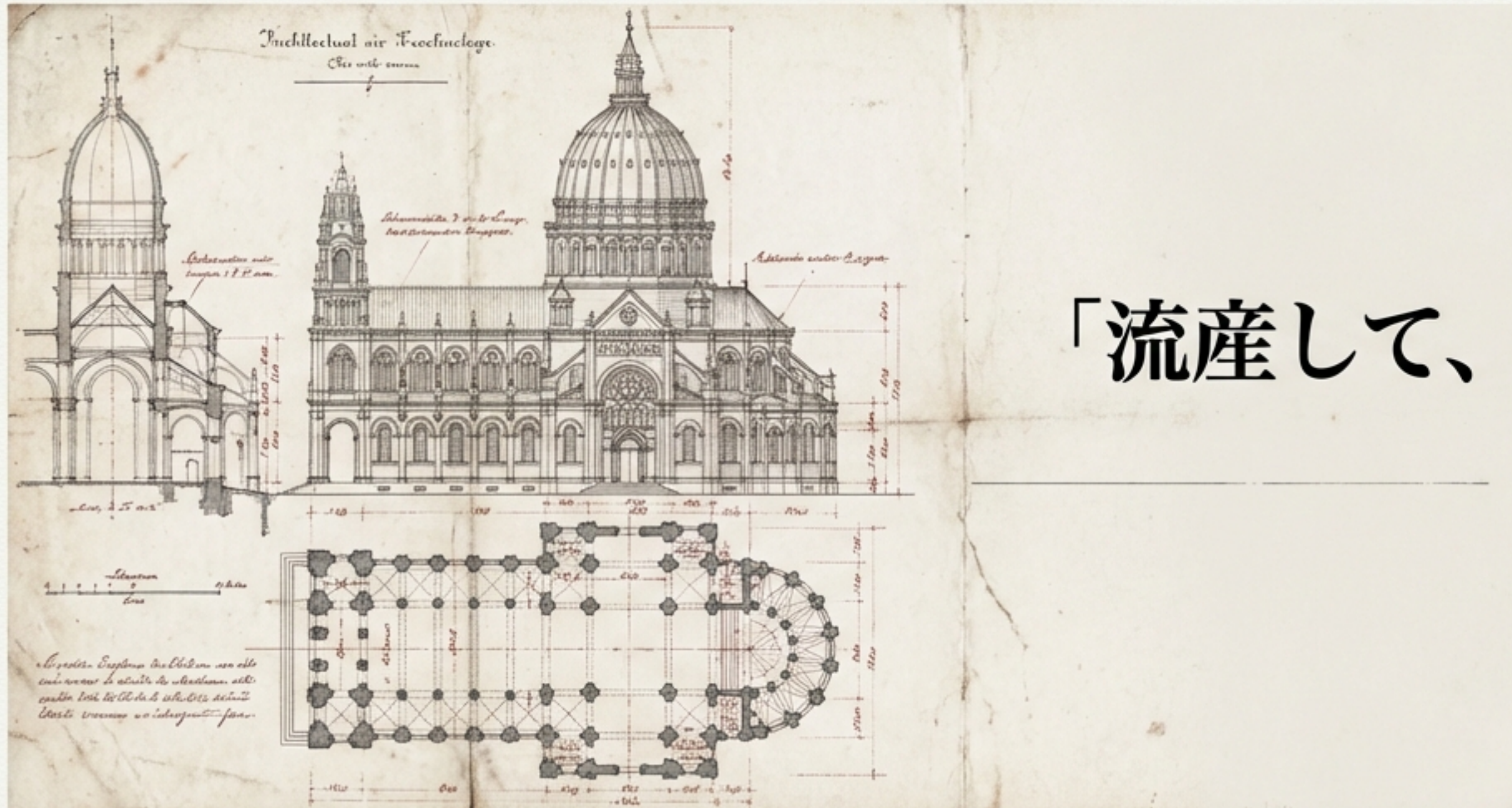


明治のあきらめ

明治期の思想家たちは、西洋のキリスト教に相当する倫理の核を日本にも作ろうと模索した。

しかし、そのプロジェクトは放棄された。

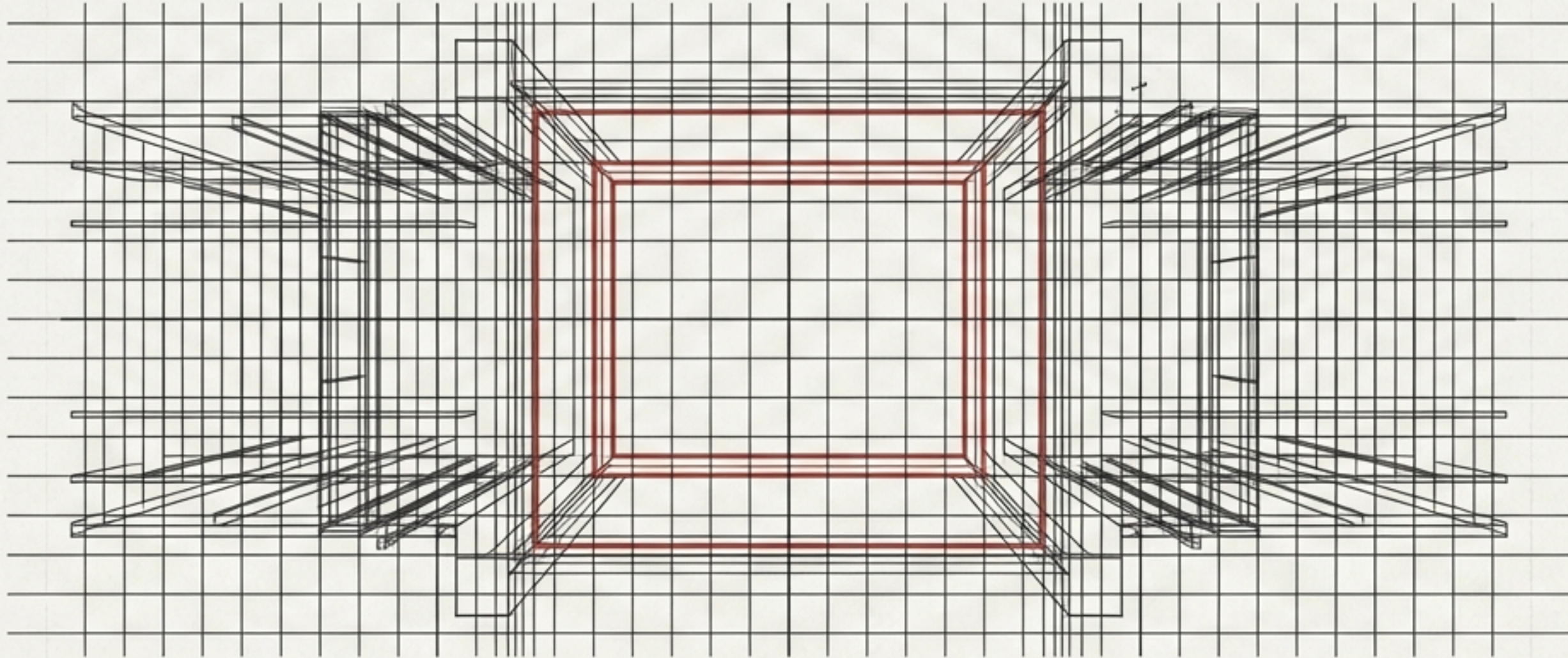
我々は、その「建設中止」の現場に住んでいる。



「流産して、それきりだ」

我々は何と向き合うべきか

日本は科学技術を導入したが、それを制御する超越的倫理を制度化しなかった。
その空白は、国家、制度、空気によって埋められた。
この「空虚な中心」を認識することこそが、次の成熟への第一歩である。



キリスト教を拒否した近代化日本のありかた

出典：品川心療内科自由メモ5

Visualization: [Architecture of the Void] Project